

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
人体構造機能学 I	2 年次	必修	講義	2 単位（30時間）	山下 修二
授 業 概 要					
<p>正常な人体の構造と機能について学習することによって、日常生活の維持や疾病の発症機構を理解する。人体構造機能学 I では、生命体を構成する基本単位である細胞の構造と機能、細胞の種類と形状について学び、次いで細胞の集合体である組織、組織の集合体である器官の構成について理解を深める。さらに各器官系のうち、運動器系、循環器系、消化器系、呼吸器系の構造と機能について系統的な知識を習得する。</p>					
到 達 目 標					
<p>細胞の構造と機能、組織の種類・構成を理解する。また運動器系として骨と骨格筋の構造と機能、人体に存在する主な骨と筋、循環器系の心臓や主要な動・静脈について理解し説明できる。特に消化器系は栄養学の根幹となる器官なので、その構造と機能に関する十分な知識を得る。</p>					
実務経験のある教員					
学 習 内 容					
回	学 習 内 容				担当教員
1	細胞と身体の成り立ち① 人体の構成成分、細胞の構造と機能				山下 修二
2	細胞と身体の成り立ち② 細胞の増殖、分化、老化				
3	細胞と身体の成り立ち③ 器官を構成するいろいろな組織				
4	細胞と身体の成り立ち④ 体の区分と名称				
5	運動系① 骨の構造、骨の成長				
6	運動系② 全身の骨格系と関節				
7	運動系③ 筋肉の構造と収縮の仕組み				
8	運動系④ 全身の骨格筋				
9	循環器系① 心臓の構造と機能				
10	循環器系② 動脈、静脈、毛細血管の構造と機能				
11	循環器系③ 全身に分布する血管系				
12	循環器系④ 胎児の循環系				
13	消化器系① 消化管の構造と機能				
14	消化器系② 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能				
15	呼吸器系 気道と肺の構造と機能、ガス交換機能、呼吸の調節				
学 習 方 法					
<p>講義はあらかじめレジュメを配布する。授業中は集中し、短時間でも予習をして欲しい。分からないことは遠慮なく質問すること。知識量としてはかなり多くのことを学ぶ必要があるが、その基礎は高校の生物や1年次に学習した生物や化学である。</p>					
評 価 方 法					
<p>〔評価方法〕 月曜試験30%、科目修了試験70%で評価する。</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕 教科書「カラー図解 新しい人体の教科書 上巻、下巻」（山科正平著、講談社ブルーバックス）</p>					